

# ヒトエグサ養殖指導

中村 勇次

## 1. 目的

奥武島は天然のヒトエグサが繁茂するなど、自然環境に恵まれている。このような環境を利用し、漁業振興につなげるため平成10年にヒトエグサの漁業権を取得しており、今年度から水産業改良普及所・水産試験場との共同による試験養殖を行った。

## 2. 実施機関

玉城村漁業組合ヒトエグサ養殖グループ  
8名

## 3. 協力

玉城村漁業組合  
玉城村役場  
水産試験場主任研究員 諸見里聡

## 4. 地域と漁業の概要

奥武島は総人口1,094人で、第一次産業に101人が従事し、その内農業従事者は27名・漁業従事者は74名となっている。

漁業種類としてはモズク養殖、パヤオ漁業、イカ釣り漁業、追い込み網漁業及び刺網漁業が行われている。水揚げした海産物は「いまいゆ市場」で販売され、多いときは知念村漁協のセリ市場まで持って行って販売している。島内では海産物の加工（トビイカ塩漬・墨付・干物、スクガラス等）も盛んである。

奥武島は自然環境に恵まれ、農漁業の振興に加え、観光振興にも力を注いでいる。また、新たに建設中の漁港が今年度中に完成し、いまいゆ市場も漁港内に移転する計画である。

## 5. 結果

ヒトエグサ養殖を始めるにあたって8月31日にヒトエグサ養殖先進地の佐敷・中城漁業協同組合北中城支所を視察した。北中城支所では古堅支所長に北中城でのヒトエグサ養殖から加工までの流れについて説明してもらい、養殖現場を沖縄県総合運動公園側から入って見学した。養殖場は外網で囲まれており、これにより漂着するゴミを防いでいるとのことであった。その後、玉城漁業組合に戻ってから普及所瀬底武主任専門技術員によるヒトエグサ養殖についての勉強会を実施した。勉強会ではスライドを使ったヒトエグサ養殖の説明や今後の日程等について話し合った。

9月に以前天然物のヒトエグサが見られた底質が岩盤の特区第153号にて採苗のための鉄筋打ち込み作業を行った。採苗は網を展開する特区第152号の大きさを勘案して8名が10枚1組の網で1回採苗した。網は干出した時に水分を含むクレモナ製の網を用いた。また、採苗場付近にN字張りを行った。

10月に採苗網の状態を見たところ、薄く緑色になっていたがヒトエグサなのか分からなかったので持ち帰って顕微鏡で確認したところ、ヒトエグサ幼体がわずかに見られたが、雑藻の方が多かった。中には泥が付着した網もあり、網洗いするように指導した。N字張りした網の下部はヒトエグサがだいぶ付いており、採苗レベルが若干高かったようである。

11月に入ってから採苗網の端の方にヒトエグサが立ち上がってきているのが確認できた。12月にかけて徐々に砂地の特区第152号に展開し

で本張りに移行した。途中網のレベルを調整し、1月になって1番成長が良かった網のレベルに高さを合わせた(潮位107~117cm)。2月の中旬には収穫できるくらいに成長しており、3月中旬より手摘みでの収穫が行われた。

## 6. 考 察

今回はヒトエグサ養殖最初の年ということもあって採苗場所・網の高さ・網の上げ下げ等課題が多く残った。まず、採苗場所については採苗網を張った場所より低位の場所に張ったN字張りの網下部にたくさんのヒトエグサの着生が

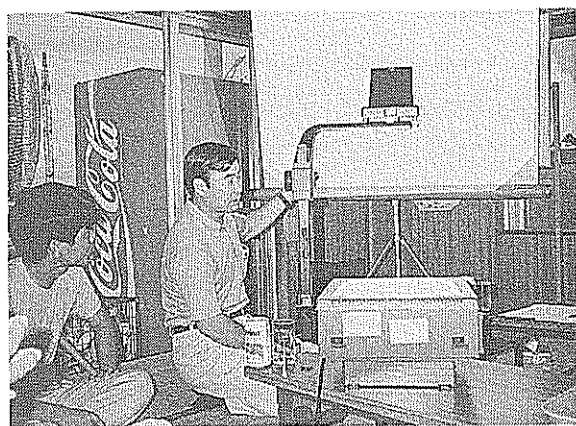
見られた。本張りについてはあまり網の上下を行わず比較的生育の良好な網にレベルを合わせて行ったが雑藻や流れ藻が付いている網も見られ、次年度からは雑藻駆除のための網の上下・囲い網の設置を行わなければならない。今回の養殖では採苗状況があまり順調でなかった割に本張りに移してから後半の成長が著しかったが、これは本張りに移してから採苗があったと考えられる。次回は本張り漁場での採苗も試みるべきである。また、ヒトエグサ養殖グループではモズク養殖と兼業で行っている漁業者もいるため網の管理等今後の取り組みが心配される。



北中城でのヒトエグサ視察。  
古堅組合長から説明を受ける。



ヒトエグサ採苗網の張り付け状況。



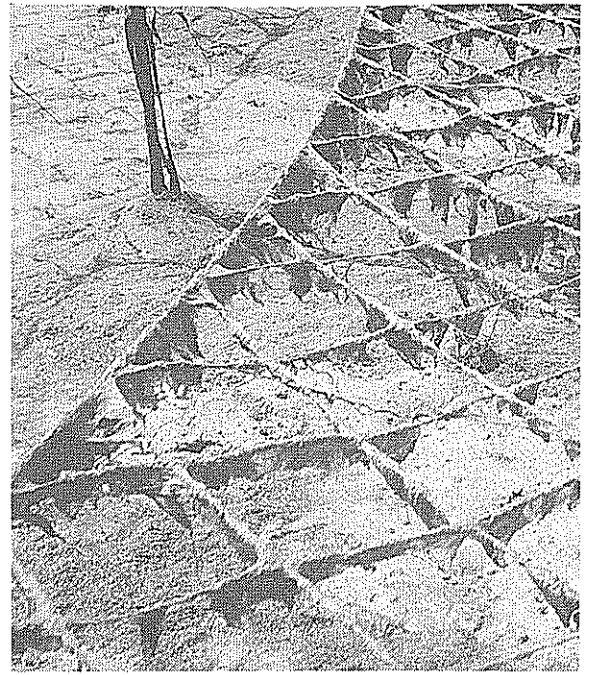
奥武組合事務所にて  
瀬底専門技術員によるヒトエグサ講習会。



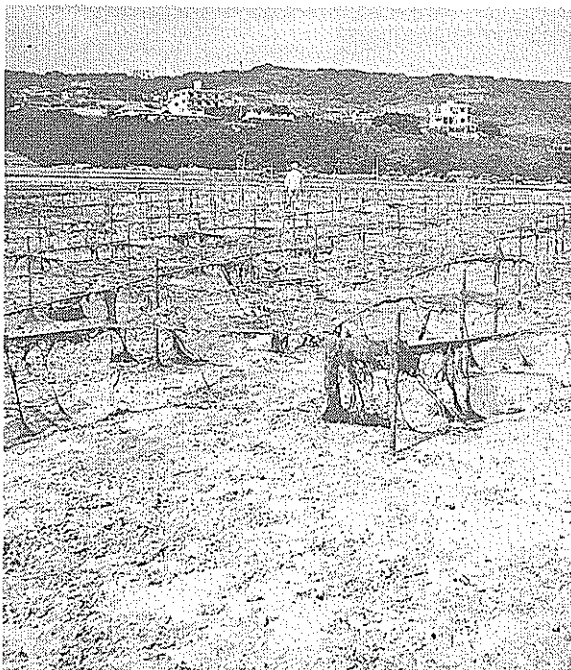
ヒトエグサ採苗場所の特区第153号全景。



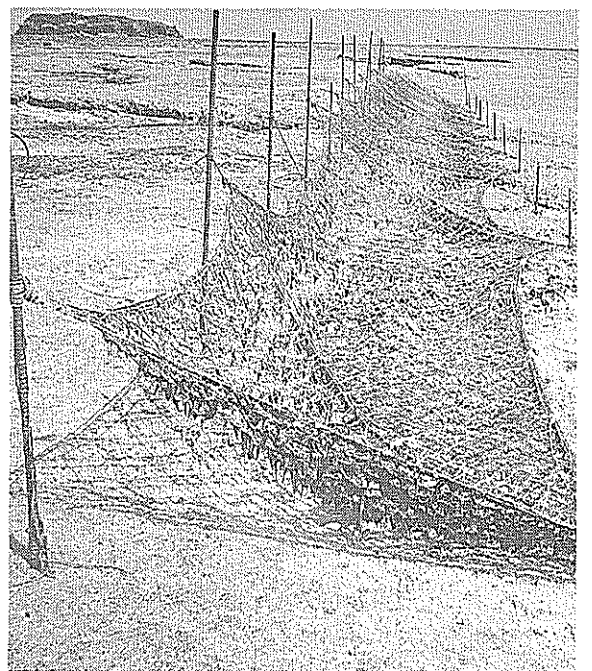
3月頃収穫できるまで成長したヒトエグサ。



ヒトエグサ中には若干雑藻が混じっている。



雑藻が漂着した管理不足の網。



同時期のN字張り網の様子。